



千葉労働新聞

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222)7207 番

93.7.6 No. 3823

戦後最大の政治的激動期の到来 「新党」の正体とは 自民党の分裂-政治改革のゆくえ

戦後最大の政治的激動期の到来

六月十九日、「政治改革関連法案」の取り扱いを巡って自民党が大分裂、内閣不信任案が可決され、衆院が解散された。腐敗しきった戦後の自民党支配体制が目の前で崩れさるうとしている。

六月二二日には、竹村グループ十名が「新党さきがけ」を結成。また二二日には、羽田・小沢派が集団で離党、翌二三日に「新民主党」が結成された。

また、二八に行われた都議会議員選挙では、「新党ブーム」にのって、この春自民党から割れた日本新党が二〇名を越す候補者を当選させた。

戦後最大の政治的激動、社会的な地殻変動が始まった。われわれは、目の前で進む事態の本質、自民党の分裂-「政治改革」のゆくえ、その正体をはっきりと見すえなければならぬ。

「新党」の正体とは

まずはつきりさせなければならぬことは、「政治改革」の御旗を掲げる「新党」の正体についてである。

純金丸派とも言うべき存在だ。ロッキード、リクルート、佐川、皇民党事件等、金権腐敗政治の構造を造り上げた張本人だ。自らも汚れた金を懐に入れ続けた連中だ。しかも、「羽田派の事実上のオーナー」と言われる小

沢は、この間「小沢調査会」を組織し、憲法改悪の急先鋒にたつてきた自民内最タカ派である。また、日本新党の細川も、そもも田中派であった。特に「佐川」とは最も親密な関係にあり、佐川から膨大な政治献金を受け取っていたことは本人も否定していない。「さきがけ」は、こ

の日本新党と合流し「新新党」を結成すると言っている。そして、「今のままの自民党では連合政権を組むことはあり得ない」と称して、自民党復帰の余地すら残している。

社会党解体攻撃と新たな翼替体制づくり

しかし、最大の問題は、この「政界再編運動」のなかで、社会党が、公然と「解体の対象」としてのみ語られ、また社会党自身もこの攻撃に完全に屈伏して、自民党内最金権派・最タカ派である羽田新党との野合路線に走っていることである。

社会党は、「外交、安防防衛等、現在の基本政策を継承する」として、羽田を首班とする連立内閣樹立の方針を打ち出した。自衛隊の海外派兵を始め、自民

党の基本政策を継承すると言うのだ。当然にも、社会党支持層のなかから猛然と反対の声がまき起り、この方針を引き金として社会党は都議選で惨敗することになる。また、社会党内でも各県本部等から反対の意見書が本部に集中した。一方自民党や第二自民党と化している公明党・民社党、マスコミなどは、この期とばかりに「社会党解体」の大合唱を始めている。この数年間くりひろげられた社会党

推薦候補の必勝を勝ちとろこ!!

七月四日
衆院選告示
一八日投票日



千葉一区
吉峯 啓晴 新43



千葉二区
小川 国彦 前60



千葉二区
清田のり子 新40



千葉三区
大木 正吾 前



千葉四区
小岩井 清 前58



東京十区
渋谷 利久 前65

解体キャンペーンの本質は、けして社会党という一党派の問題ではない。社会党を叩くことを通して、「平和と民主主義」「保守対革新」「資本対労働者」というような国家と国民の在り方、価値観、意識の全てを覆そうという攻撃である。そして

今、なす術もない社会党の屈伏をいいことに、自らの支配の危機をも逆手にとつて、一挙に社会党の解体に向けた王手をかけようとしているのだ。行き着く先は、「保守二党制」という名の現代版翼賛体制の確立である。

社会党の前身である社会大衆党がまず解党し、政友会がこれに続いた。最も消極的だった民政党も一カ月後には解党し、結局自発的に解散しない組織は強制解散に追い込まれ、「翼賛政治体制」がつくり出された。

ちなみにこの年の秋、日本は石油を始めとした資源欲しさのために、ベトナム、カンボジアに出撃している。とどのつまり日本は、中国・アジアの民衆の怒りの反撃と対日包囲網のなかで「抑々東亜の安定を確保し以

て世界の平和に寄与する」(宣戦の詔書)を名目に日米開戦の泥沼の道に転落したのである。もちろん、当時と今日の情勢の違いは大きい。が、それにして進行している事態はあまりにも似ていると言わざるを得ない。

三、四、五、自民党支配の崩壊を撃つ闘いを!!

この攻撃は、言うまでもなく、国鉄分割・民営化、総評解体―連合の結成以来の支配階級の基本政策である。そしてこの中で、最も反動的な立ち回りを行っている者こそ連合に他ならない。連合は、この間社会党潰しの急先鋒を担ってきた。自衛隊容認や改憲路線を掲げ、「選別推薦」で社会党を恫喝し、「民間政治

臨調」や改憲や海外植民を公然と方針に掲げる「平成維新の会」等の重要なポストを担い、羽田―小沢と気脈を通じて「私は社会党を解体するために社会党に残っている」「改革を目指す者であればヒトラーとでも手を組む」(山岸)とまで言い放ったのである。

四、かこつたあつても似てゐる今日の状況

「政治改革」を御旗とした以上の動きは、日米戦争前夜の一九三〇年代の状況を彷彿させるものがある。当時の「翼賛体制づくり」の前段でも、「政界浄化」「肅正選挙」という社会的な大キャンペーンが行われるなかで、三七年末以来、いくつかな新党運動が表面化した。これ

らの新党運動はどれも失敗に終わるが、四〇年、日中戦争が泥沼に陥り国内での危機も深刻化する状況のなかで、政界をこえた百名の議員が近衛文麿をおして「新体制運動」を標榜し、強力新党樹立を画策しはじめると、諸勢力は先をききそつて近衛新党へとなだれこんでいった。

現在進んでいる「政治改革」

「政界再編」の動きは、明らかに権力の側から仕掛けられた攻撃である。しかし、根底にあるものは、政権党の分裂にまで行き着いた戦後支配体制のぬきさ

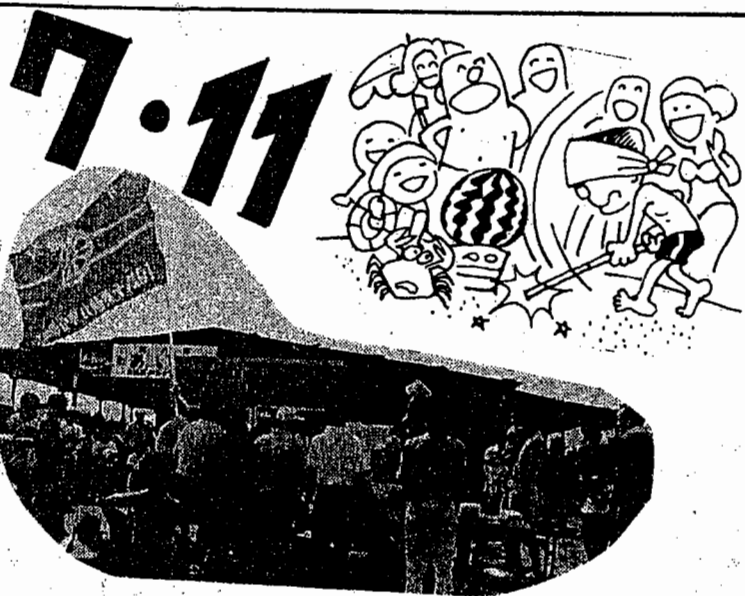
しならない危機だ。求められて

いるのは、この危機を突く労働者の闘いであり、連合路線をうち破る闘う労働運動の再生だ。われわれは、臨調―行革、国鉄分割・民営化攻撃との闘いにあ

たって、現在に至る支配階級の

意図を見ぬくことに成功したがゆえに、明確な闘いの指針を示しえたのである。今こそ、この十年間の闘いの経験と教訓が、生きるべきである。

第6回団結地引き綱大会 家族揃って集まろう!



【日時】 7月11日(日) 9時より
【場所】 九十九里・一松(ひつまつ)海岸
海の家「あいの」
【交通】 外房線茂原駅東口よりバス
白子車庫行で「一松海岸」下車
[茂原発] 8:10、9:11
※ 駐車場もあります。